



市川レポート

アンソロピック・ショックやSaaS崩壊論に関する考察

- 米アンソロピックは1月30日以降、法務・財務分析の自動化など、AIの新機能を立て続けに発表。
- いわゆるアンソロピック・ショックにより関連銘柄が大きく下落、市場でSaaS崩壊論も広がる状況に。
- 足元の関連銘柄の下げは行き過ぎとみられアンソロピック・ショックも米国のダイナミズムと解釈可能。

米アンソロピックは1月30日以降、法務・財務分析の自動化など、AIの新機能を立て続けに発表

人工知能（AI）開発の米新興企業、アンソロピックは1月30日、AIEージェント「Cowork（コワーク）」に新機能を追加し、法務・財務分析などの専門的な業務の自動化にも対応すると明らかにしました（図表1）。テキストや画像などのコンテンツを自動生成する生成AIに対し、AIEージェントは、目標達成のために自ら計画を立て、さまざまなツールを使い分けながらタスクに取り組むなど、自律的に動作することを特徴としています。

アンソロピックはその後、2月5日に最新AIモデル「Claude Opus 4.6（クロードオパス4.6）」を発表し、金融分析に優れた性能が示されました。20日には、AIモデルに追加した脆弱性管理機能「Claude Code Security（クロード・コード・セキュリティ）」を発表し、また23日にはブログの記事で、クロード・コードを使えば、旧式のプログラミング言語「COBOL（コボル）」の近代化を支援できると説明しました。

【図表1：米アンソロピックの最近の動き】

日程	主な動き
1月30日	AIEージェント「Cowork（コワーク）」に新機能を追加。法務・財務分析などの専門的な業務の自動化にも対応。
2月5日	最新AIモデル「Claude Opus 4.6（クロードオパス4.6）」を発表。金融分析に優れた性能。
2月20日	AIモデルに追加した脆弱性管理機能「Claude Code Security（クロード・コード・セキュリティ）」を発表。
2月23日	ブログの記事で、クロード・コードを使えば、旧式のプログラミング言語「COBOL（コボル）」の近代化を支援できると説明。

(出所) 各種報道を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：アンソロピック・ショックと関連銘柄の反応】

関連セクター	銘柄	期間	騰落率（%）
業務ソフト関連	セールスフォース	1月29日～2月24日	-13.39
	アドビ		-12.51
	サービスタク		-12.20
金融サービス関連	ファクトセット・リサーチ・システムズ	2月4日～24日	-10.62
	S&Pグローバル		-10.15
サイバーセキュリティ関連	クラウドフル	2月19日～24日	-14.97
	オクタ		-13.03
メインフレーム関連	IBM	2月20日～24日	-10.83

(注) 期間は騰落率の計算期間。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



いわゆるアンソロピック・ショックにより関連銘柄が大きく下落、市場でSaaS崩壊論も広がる状況に

米国株式市場では、1月30日以降、アンソロピックが新しいAI機能を発表するたびに、関連する企業の株価が大きく崩れる動きが繰り返され、これら一連の現象を「アンソロピック・ショック」と指摘する向きもみられます。1月30日に発表された法務・財務分析の自動化機能は、既存の業務ソフトを代替するとの見方が広がり、セールスフォースなど業務ソフトを提供する企業の株価は大きく下落しました（図表2）。

2月5日の発表後は、金融サービス関連銘柄に、20日の発表後はサイバーセキュリティ関連銘柄に、それぞれ売りが広がりました。なお、セールスフォースなどの企業は、クラウド経由で業務用ソフトを提供するサービス「SaaS（ソフトウェア・アズ・ア・サービス）」を手掛けていますが、今後はAI エージェントに取って代われ、SaaSのビジネスモデルが崩壊するという懸念も市場に広がっています。

足元の関連銘柄の下げは行き過ぎとみられアンソロピック・ショックも米国のダイナミズムと解釈可能

SaaS崩壊論について、市場ではさまざまな意見が聞かれますが、関連銘柄の下げは行き過ぎとの見方も多いように思われます。確かに、既存の全ソフトウェアがAIエージェントによって直ちに完全代替されてしまうようなことは、あまり現実的ではないと考えられます。ただ、長期的にみた場合、時間の経過とともに、AIエージェントの機能が向上すれば、既存ビジネスへの影響も大きくなることが予想されます。

そのため、今後、SaaSを手掛ける企業には、AIを上手く活用してサービスを高度化・効率化し、ビジネスモデルを発展させて企業価値向上につなげることが求められると考えます。米国ではIT（情報技術）の革新サイクルが5～6年周期に発生するとの分析もあり、今回のアンソロピック・ショックも、その流れのなかにあるとすれば、むしろ米国企業や米国市場のダイナミズムという前向きな解釈ができると思われれます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会